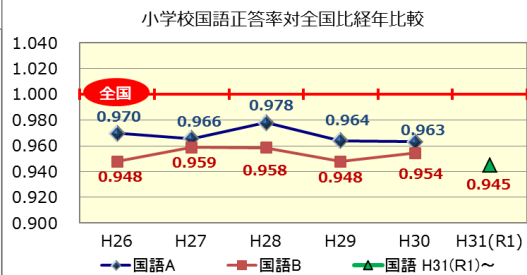
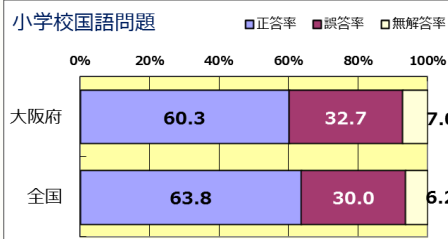


# 小学校国語

平均正答率は60.3%である。「読むこと」の領域で成果が見られるものもあるが、自分の考えをまとめて書くことや、学習した漢字を文脈の中で使い分けるなど基礎的・基本的な知識・技能の定着状況に課題が見られ、引き続き指導の充実が求められる。

## 正答率・無解答率比較



〔平成31年度（令和元年度）調査より、従来のA問題・B問題という区分を見直し、知識・活用等を一体的に問う調査問題に変更された〕

## 平均正答率は全国を3.5ポイント下回った

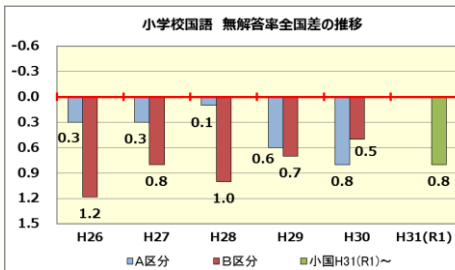
◆ 全国平均正答率が63.8%であるのに対し、大阪府の平均正答率は60.3%あり、3.5ポイント全国を下回った。

## 平均正答率対全国比は0.945ポイントだった

◆ 全国平均正答率を1とすると、大阪府の平均正答率の対全国比は、0.945だった。

## 無解答率は全国と比べ0.8ポイント差があった

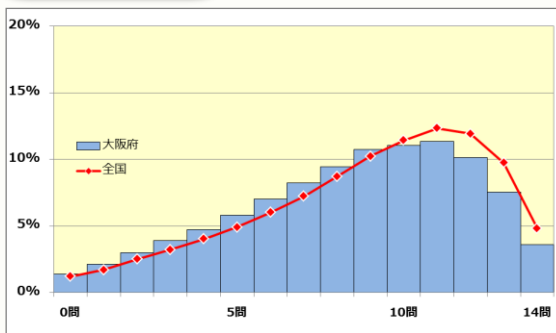
◆ 全国平均無解答率が6.2%であるのに対し、大阪府の無解答率は7.0%であり、全国より0.8ポイント高い。



## 具体的な課題等

- ◇ 目的に応じて、文章の内容を押さえ、自分の考えを明確にしなが読むことはできている。（「疑問に思ったこと」に対する答えとして適切なものを選択する。〔2〕一（1））
- ◇ 目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読むことはできている。（【目次の一部】から読むページとして適切なものを選択する。〔2〕二）
- ◆ 目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことに課題がある。（公衆電話について調べて分かったことをまとめて書く。〔1〕三）
- ◆ 同音異義語に注意して、学年別配当表に示されている漢字を正しく使うことに課題がある。（「対象」の「象」、「関心」の「関」に注意して書く。〔1〕四（1）ア・ウ）
- ◆ 文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くことに課題がある。（「そこで」を使って二文に分けて書く。〔1〕四（2））

## 正答数分布

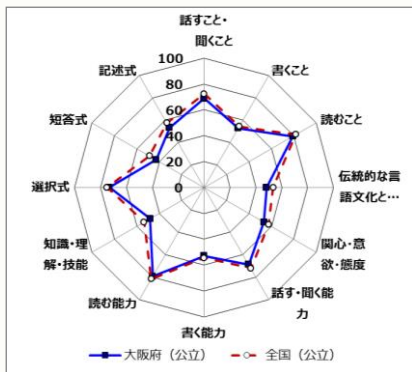


## 正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

- ◆ 大阪府・全国ともに11問を頂点とした右よりの山型を描いている。
- ◆ 大阪府は0～9問では、全国よりも正答数分布の割合は高く、10～14問では全国よりも低い。

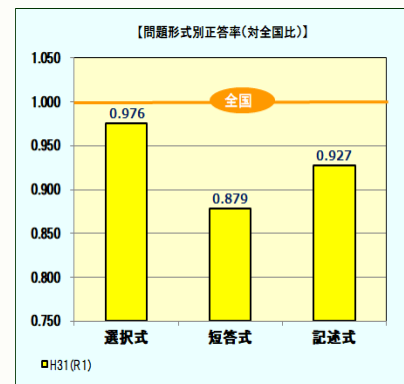
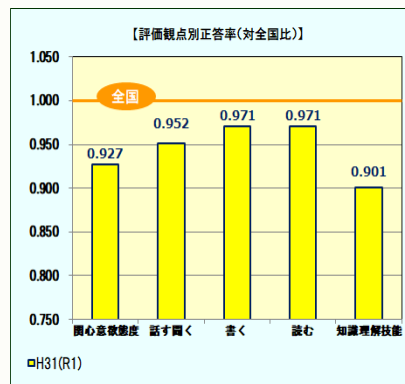
## 領域・観点・問題形式別比較

平成31年度（令和元年度）レーダーチャート



## 領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

- ◆ レーダーチャートの描くラインは、全国状況とほぼ重なるように同傾向を示している。
- ◆ 今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「読むこと」の領域で高い値を示し、「知識・理解・技能」「短答式」で特に低い値を示している。

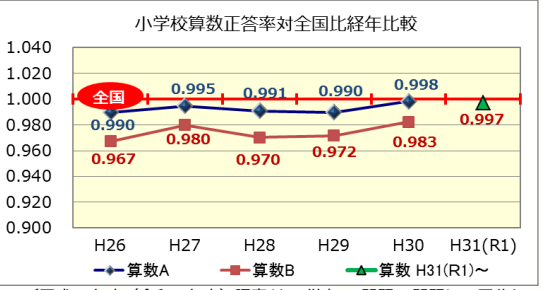
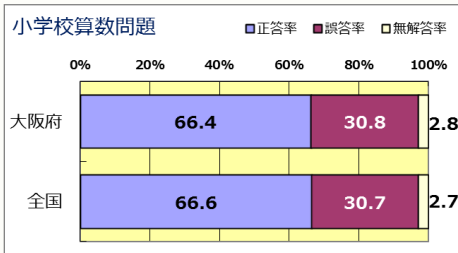


◆ 全国平均正答率を1として、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて、大阪府の平均正答率の割合を示すと上のような傾向が見られる。

# 小学校算数

平均正答率は66.4%である。複数の資料の特徴や傾向を関連づけて判断したり、図形の面積の求め方を解釈し、その求め方について説明したりするなど、課題に対する指導の充実が求められる。

## 正答率・無解答率比較



（平成31年度（令和元年度）調査より、従来のA問題・B問題という区分を見直し、知識・活用等を一体的に問う調査問題に変更された）

## 平均正答率は全国を0.2ポイント下回った

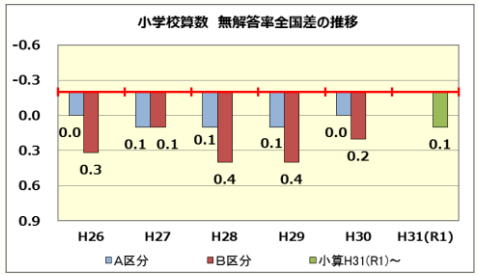
◆ 全国平均正答率が66.6%であるのに対し、大阪府の平均正答率は66.4%であり、0.2ポイント全国を下回った。

## 平均正答率対全国比は0.997ポイントだった

◆ 全国平均正答率を1とすると、大阪府の平均正答率の対全国比は、0.997だった。

## 無解答率は全国と比べ0.1ポイント差があった

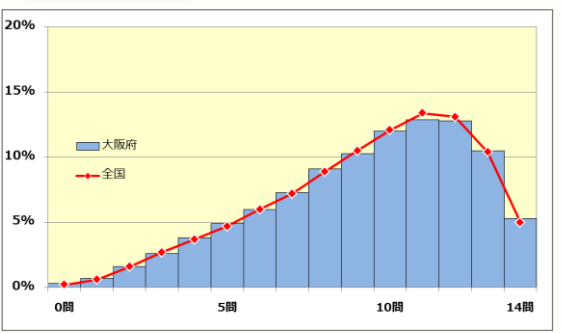
◆ 全国無解答率が2.7%であるのに対し、大阪府の無解答率は2.8%であり、全国より0.1ポイント高い。



## 具体的な課題等

- ◆ 示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、与えられた式の計算に適用することができている。（引く数を100にした式にして計算するとき、ふさわしい数値の組み合わせを書く。[3]（1））
- ◆ 棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることができている。（10年ごとの市全体の水の使用量について、棒グラフから分かることを選ぶ。[2]（1））
- ◆ 示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述することに課題がある。（除法の計算の仕方のまとめを「わるる数」「わる数」「商」の3つの言葉を使って書く。[3]（2））
- ◆ 示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述することに課題がある。（図形の面積の求め方を数や演算の表す内容に着目して書く。[1]（3））
- ◆ 二つの棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取り、それらを関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し判断の理由を記述することに課題がある。（グラフから分かることを選び、そのわけを書く。[2]（3））

## 正答数分布

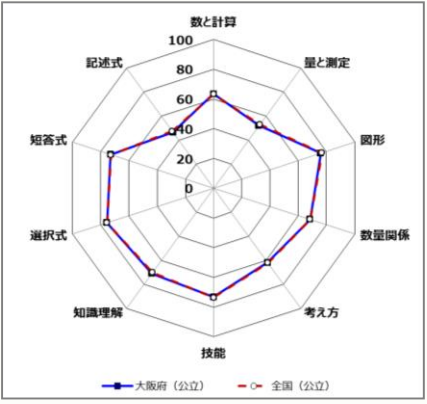


## 正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

- ◆ 大阪府・全国ともに11問を頂点とした右よりの山型を描いている。
- ◆ 大阪府は5, 8, 14問では、全国よりも正答数分布の割合は高く、9, 11, 12問では全国よりも低い。他は、ほぼ同じ割合である。

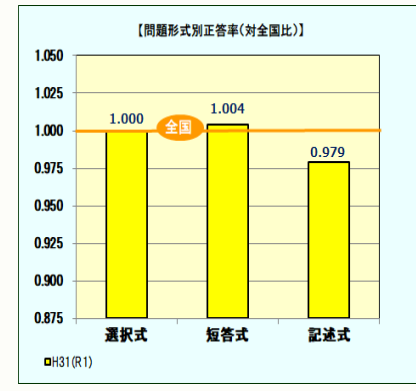
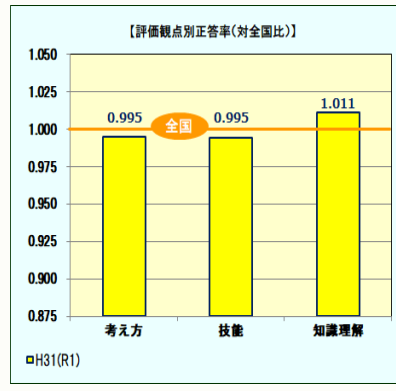
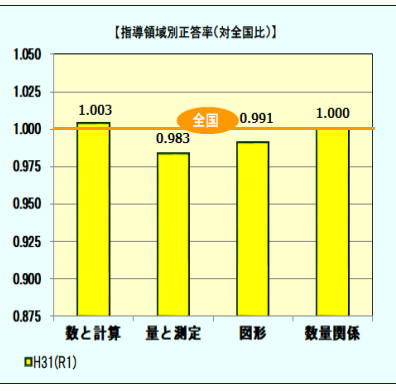
## 領域・観点・問題形式別比較

平成31年度（令和元年度）レーダーチャート



## 領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

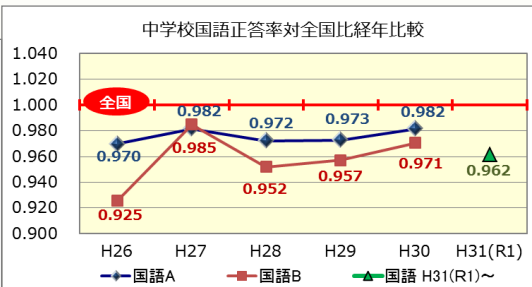
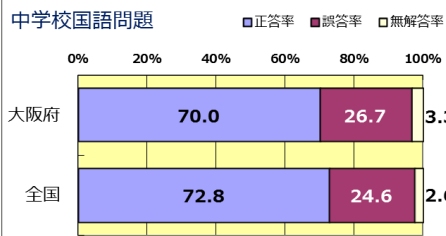
- ◆ レーダーチャートの描くラインは、全国状況とほぼ重なるように同傾向を示している。
- ◆ 今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「量と測定」でやや低い値を示している。



◆ 全国平均正答率を1として、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて、大阪府の平均正答率の割合を示すと上のような傾向が見られる。

平均正答率は70.0%である。「書くこと」の領域で成果が見られるものもあるが、文章の展開に即して情報を整理し内容を捉えたり、話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えを持ちたりすることに課題があり、指導の充実が求められる。

## 正答率・無解答率比較



（平成31年度（令和元年度）調査より、従来のA問題・B問題という区分を見直し、知識・活用等を一体的に問う調査問題に変更された）

## 平均正答率は全国を2.8ポイント下回った

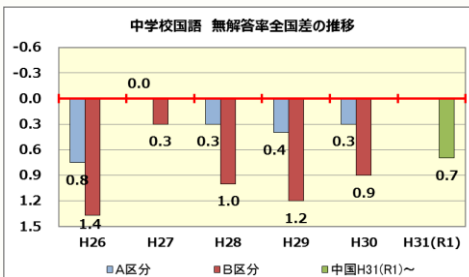
◆ 全国平均正答率が72.8%であるのに対し、大阪府の平均正答率は70.0%であり、2.8ポイント全国を下回った。

## 平均正答率対全国比は0.962ポイントだった

◆ 全国平均正答率を1とすると、大阪府の平均正答率の対全国比は、0.962だった。

## 無解答率は全国と比べ0.7ポイント差があった

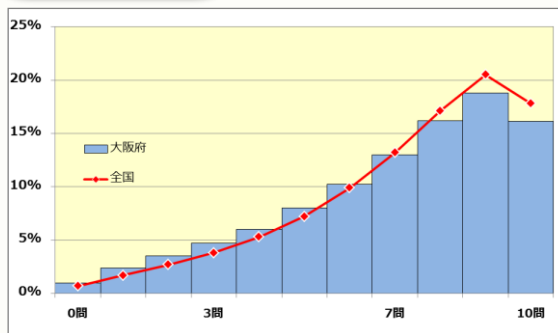
◆ 全国平均無解答率が2.6%であるのに対し、大阪府の無解答率は3.3%であり、全国より0.7ポイント高い。



## 具体的な課題等

- ◇ 書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討することはできている。（意見文の下書きに書き加える言葉として適切なものを選択する。[3] 一）
- ◇ 語の一部を省いた表現について、話や文章の中での適切な活用の仕方を理解することはできている。（語の一部を省いた表現について適切な説明を選択する。[4]）
- ◆ 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつことや、文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えることに課題がある。（文章に書かれている情報を整理し、適切なものを選択する。[1] 二）
- ◆ 話し合いの話題や方向を捉えることはできているが、それを踏まえて自分の考えをもつことに課題がある。（話し合いの流れを踏まえ、決まっていないうえについて自分の考えを書く。[2] 三）

## 正答数分布

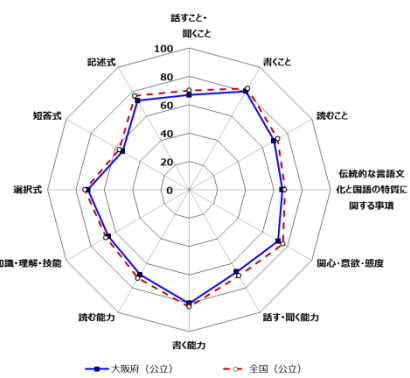


## 正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

- ◆ 大阪府・全国ともに9問を頂点とした右よりの山型を描いている。
- ◆ 大阪府は0～6問では、全国よりも正答数分布の割合は高く、7～10問では全国よりも低い。

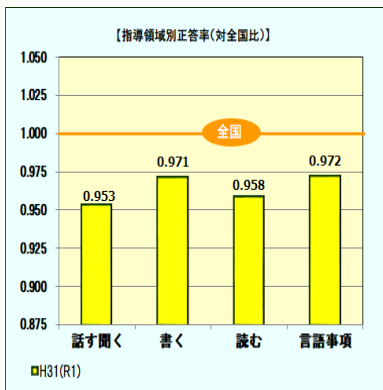
## 領域・観点・問題形式別比較

平成31年度（令和元年度）レーダーチャート

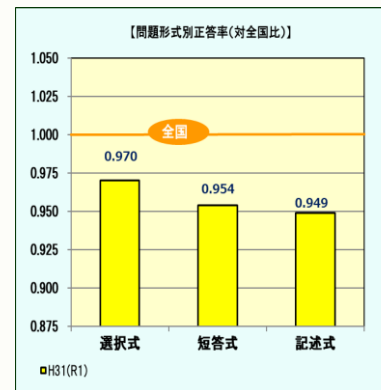
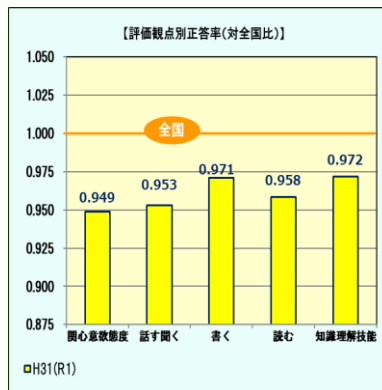


## 領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

- ◆ レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ重なるように同傾向を示している。
- ◆ 今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「書くこと」の領域で高い値を示し、「短答式」で特に低い値を示している。



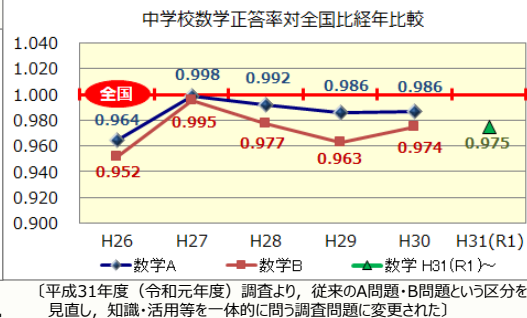
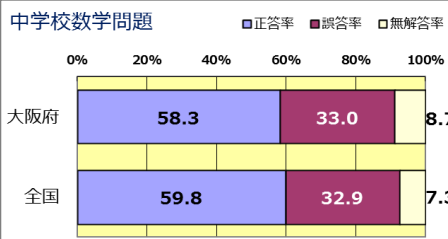
◆ 全国平均正答率を1として、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて、大阪府の平均正答率の割合を示すと上のような傾向が見られる。





平均正答率は58.3%である。関数の領域、資料の活用の領域において課題があり、基礎的、基本的な知識・技能の習得や判断の理由を数学的な表現を用いて説明することの指導の充実が求められる。

## 正答率・無解答率比較



(平成31年度（令和元年度）調査より、従来のA問題・B問題という区分を見直し、知識・活用等を一体的に問う調査問題に変更された)

## 平均正答率は全国を1.5ポイント下回った

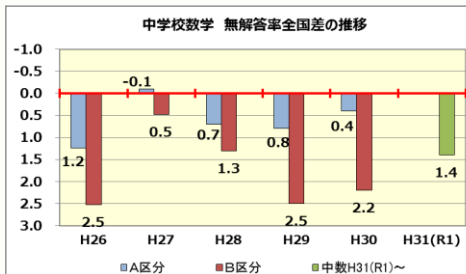
◆ 全国平均正答率が59.8%であるのに対し、大阪府の平均正答率は58.3%であり、1.5ポイント全国を下回った。

## 平均正答率対全国比は0.975ポイントだった

◆ 全国平均正答率を1とすると、大阪府の平均正答率の対全国比は、0.975だった。

## 無解答率は全国と比べ1.4ポイント差があった

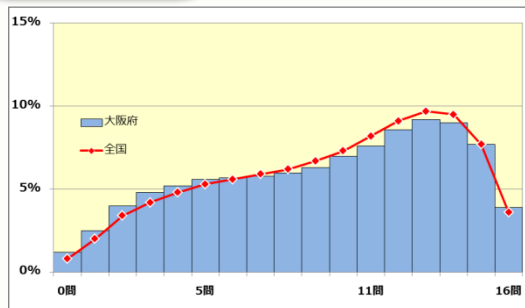
◆ 全国無解答率が7.3%であるのに対し、大阪府の無解答率は8.7%であり、全国より1.4ポイント高い。



## 具体的な課題等

- ◇ 簡単な連立二元一次方程式を解くことについて、改善の傾向がみられる。(連立二元一次方程式を解く[2])
- ◇ 平行移動の意味について理解している。(平行移動した図形を見て、移動の距離を求める。[3])
- ◇ 簡単な場合について確率を求めることはできている。(2枚の硬貨を同時に投げるとき、2枚とも表の出る確率を求める。[5])
- ◆ 筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することに、引き続き課題がある。(連続する5つの奇数の和は中央の奇数の5倍になることの説明を完成する。[9](1))
- ◆ 事実を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。(2つの冷蔵庫について、式やグラフを用いて、2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する。[6](2))
- ◆ 資料を整理した表から最頻値を読み取ることに課題がある。(読んだ本の冊数の最頻値を求める。[8](1))
- ◆ 資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。(「1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多い」という考えが適切でない理由を、ヒストグラムの特徴を基に説明する。[8](3))

## 正答数分布

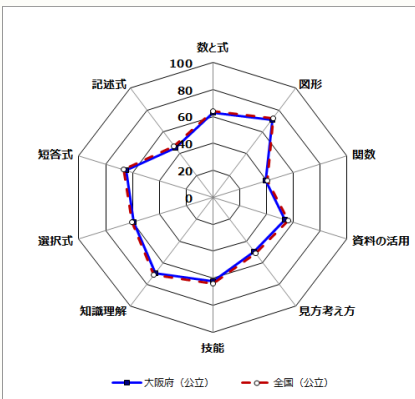


## 正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

- ◆ 大阪府・全国ともに13問を頂点とした右よりの山型を描いている。
- ◆ 大阪府は0～6問、16問では、全国よりも正答数分布の割合が高く、7問～14問では全国より低い。

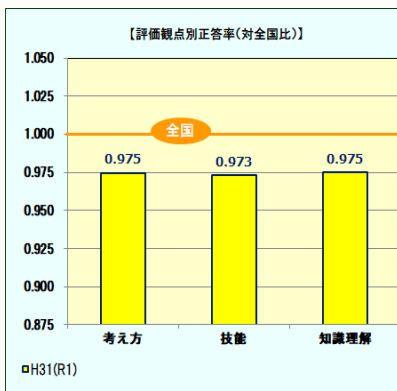
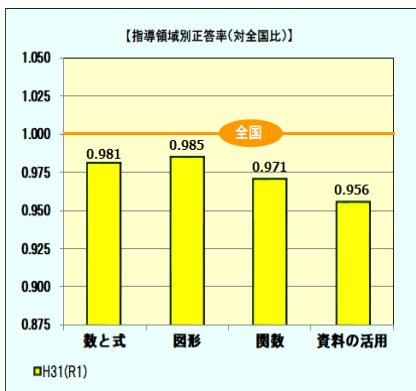
## 領域・観点・問題形式別比較

平成31年度（令和元年度）レーダーチャート



## 領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

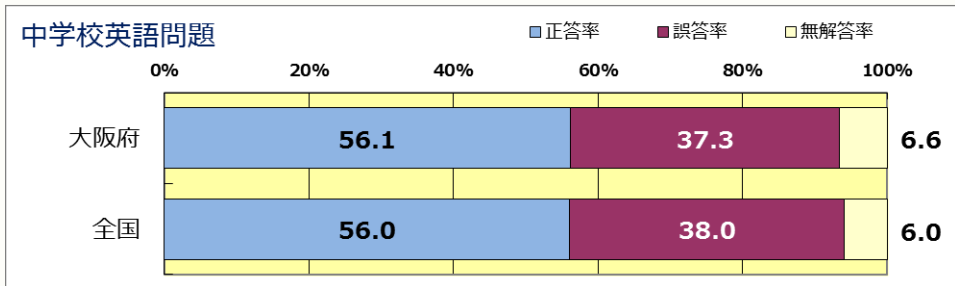
- ◆ レーダーチャートの描くラインは、全国状況とほぼ重なるように同傾向を示している。
- ◆ 今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「数と式」「図形」でやや高く、「関数」でやや低い値を示している。



◆ 全国平均正答率を1として、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて、大阪府の平均正答率の割合を示すと上のような傾向が見られる。

平均正答率は56.1%である。「書くこと」の領域で全国の前答率を上回るなど比較的にできている点もあるが、まとまりのある内容を英語で聞き取ることや、読み取ることによって課題が見られる。また、即興的なやり取りにも課題が見られ、技能を統合させた言語活動の充実が求められる。

## 正答率・無解答率比較



## 平均正答率は全国を0.1ポイント上回った

◆全国の前答率が56.0%であるのに対し、大阪府の前答率は56.1%であり、0.1ポイント全国を上回った。特に「書くこと」については、全8問中、5問が全国の前答率を上回る結果となった。一方、聞いたことを基にして書くという技能統合の問題では、大阪府の前答率6.9%（全国：7.6%）、読んだことを基にして書くという技能統合の問題では、大阪府の前答率12.0%（全国：10.9%）となり、ともに課題がみられた。

## 無解答率は全国と比べ0.6ポイント差があった

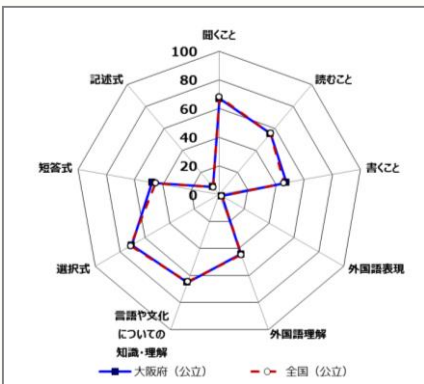
◆全国の前答率が6.0%であるのに対し、大阪府の前答率は6.6%であり、0.6ポイント全国を上回った。

## 4領域のうち「話すこと」パートは、参考値として公表した

◆出題された4領域（「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」）のうち、「話すこと」パートについては、全体の平均前答率に数値を含めず、参考値として示した。なお、「話すこと」パートの全国の前答率は30.8%であった。

## 領域・観点・問題形式別比較

平成31年度（令和元年度）レーダーチャート



## 領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

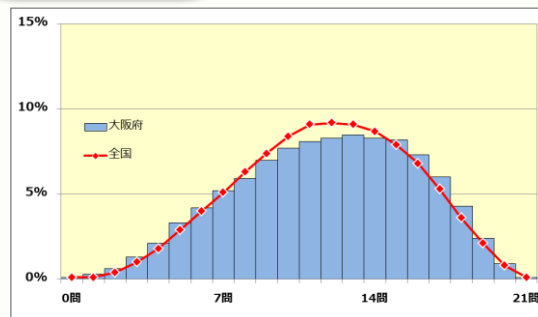
◆レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ重なるように同傾向を示している。

◆今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「聞くこと」の領域で高い値を示し、「外国語表現」「記述式」で特に低い値を示している。

## 具体的な課題等

- ◆まとまりのある英語を聞いて、概要を聞き取ることや、必要な情報を理解することはできている。（天気予報を聞いてピクニックに行くのに適する曜日を選ぶ。[3]）
- ◆日常的な話題について、簡単な文で書かれた内容を正確に読み取ることができている。（グラフを見て、その内容を正しく表している英文を選択する。[5]（3））
- ◆まとまりのある内容を聞いたうえで、適切に応じることによって課題がある。（留学生のメッセージを聞いて部活動についてのアドバイスを書く。[4]）
- ◆まとまりのある文章を読み、書き手が最も伝えたいことを理解し、大切な部分をとらえることによって課題がある。（チンパンジーに関する説明文と対話文を読んで、説明文で最も伝えたい内容を選択する。[7]）
- ◆自分の意見が話そうとする意欲は感じられるものの、情報や考えなどを即興でやり取りしたり、相手の発話の内容を踏まえて、関連した質問や意見を話したりすることに課題がある。（2人のやり取りを聞き、会話が長くように即興で質問する。「話すこと」[2]）

## 正答数分布

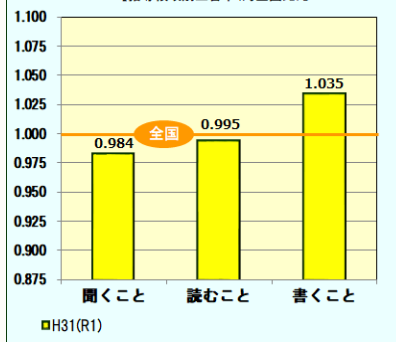


## 正答数分布の様子は全国の前況と同傾向

◆全国は12問、大阪府は13問を頂点とした緩やかな、やや右よりの山型を描いている。

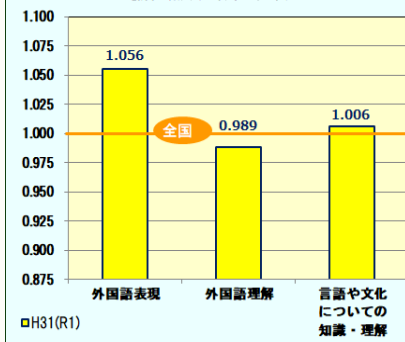
◆大阪府の前答数分布の割合は、0～7問及び15～21問では全国より高く、8～14問では全国より低い。

【指導領域別前答率(対全国比)】



◆全国の前答率を1として、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて、大阪府の前答率の割合を示すと上のよう傾向が見られる。

【評価観点別前答率(対全国比)】



【問題形式別前答率(対全国比)】

